

令和6年度 校内研修全体計画

平 戸 市 立 度 島 小 学 校

校 内 研 究 担 当

1 研究主題

確かな学力を育み、主体的な学びを実現する学習指導の工夫

～自ら学び表現できる国語科授業の工夫を通して～

2 主題設定の理由

(1) 本校の教育目標から

本校では、学校教育目標「郷土『度島』に誇りを持ち、たくましく未来を切り拓いていく、心豊かで活力ある子どもの育成」の下、家庭・地域と連携と共に、徳・知・体の調和のとれた人間性豊かで、社会に貢献する児童の育成に取り組んでいる。これらの目標を達成するために、本年度の重点目標として「豊かな心を育てる」「確かな学力をつける」「体力と耐力をつける」を掲げている。特に、「確かな学力をつける」ために、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善や、新学力向上のための3つの提案の一つでもある「できた」「わかった」の笑顔あふれる授業の工夫、小中併設校の特色を生かした学力向上に向けた取組等により、自らの未来を切り拓き、心身ともにたくましく生きる力の育成が必要だと考える。

(2) 児童の実態と昨年までの研究から

本校は、全校児童27名の小規模校であり、1、2年生は単式学級、3・4年生と5・6年生は複式学級で構成されている。今後も、人数が減り、完全複式学校となっていく。児童は、保育所から一緒に過ごしてきたこともあり、みんな仲良く活動したり協力したりする姿が日常的に多く見られる。また、小中併設校ということから、行事等で中学生との関わりも深く、児童生徒ともに良好な人間関係を築くことができている。

本校では、しばらくの間、複式学級を有することが想定されているため、令和元年度から「自分の考えを表現し、互いに学び合う子どもの育成」を研究主題として、算数科を中心に複式授業の充実を図ってきた。

昨年度は、研究の軸を「自ら学び表現できる算数科複式授業の工夫」とし、校内研究を行ってきた。また、令和5年度からは、児童の発達段階に応じた「学び方の系統」を設定し、学校全体で共有したことで、各学年において必要な学び合い方や活動のスキルを高めることができ、平戸市標準学力調査では、一定の成果を上げることができた。一方、活用の項目においては、物語の読み取りや、問題文の意味理解等の「読解力」に課題が見られた。

そこで、本年度は、これまで培ってきた複式授業の手法を生かしながら、国語科の指導において、「読解力」の向上を目指した授業改善を進めていく。

※「主体的な学び」とは

- ・児童が学ぶことに興味や関心を持ち、毎時間見通しを持って、粘り強く取り組むとともに、自らの学習をまとめ、振り返り、次の学習へつなげること。

※「読解力」

- ・根拠を明確にして読み取る力

3 研究内容

- (1) 基礎的基本的な学力の定着（RSTの活用）
- (2) 読解力向上を目指した授業改善
- (3) 複式授業の充実
- (4) 小中連携

4 取組の具体的内容

(1) 「読解力」向上の充実を図るために

- ・国語科学習指導に研究の主軸をおき、学習過程の定着を図る。
- ・言語活動の工夫
- ・学習過程を「つかむ」「調べる」「深める」「広げる」とし、全学年で「複式授業の工夫」を共通理解する。
- ・「深める」過程での学び合いが充実するように、各学年に応じたガイドマニュアルの工夫を図る。また、振り返りでは、書く活動を取り入れて、表現力を高める。
- ・タブレット端末は、「基礎基本の定着をする項目」に活用する。
- ・2学期：公開授業

※国語科の学習で、児童の実態に合わせた内容を考える。

- ・冬休み又は1月中：実践報告

(2) 基礎的基本的な学力の定着に向けて

① ホップタイムの取組

月（名文暗唱）火（国語科 スキルタイム「読解力」）※ドリルパーク

水（月に1回百マスプリント）各教室で

金（算数科 スキルタイム「基礎問題」）※ドリルパーク

※ミライシード等を活用する。

② 問題プリントの整理・作成、RST の活用

※読解力プリントを活用する。

(3) 読解力向上を目指した授業改善

〔授業改善メソッド、「学力向上のための三つの提案、読解力育成プラン」〕

① 教師の言語活動の工夫

② 児童の言語活動の充実

(4) 小中連携に向けて

① お互いの公開授業の参観

② 継続的な研修への参加

5 研究構想図

